

第6次チーム、7月に仙台・女川へ

グループ〈わ〉は7月初旬に東北へ第6次チームを派遣します。東北でボランティア活動を始めて5年。カレッジ関係者のご協力が続けてこられた交流事業も、今回で一応の区切りをしたいと考えています。3月6日には、プラン作りを担当するプロジェクトチームをスタートさせ、準備に入りました。好評だった手料理の交流会など、現地の要望を生かした内容を検討中です。(東北プロジェクト・南形徹)

昔遊びや料理で交流

訪問地は仙台・東六郷小学校、荒井仮設住宅、女川・第一、第四保育所、運動公園復興住宅、名取・閑上小学校など。時期は7月2日(木)～6日(月)の4泊5日を予定しています。活動内容は、昔遊び、マジック、民謡や歌、手料理交流会、ディスコン大会、阪神と東北大震災の体験発表など。メンバーは7～9人程度(数人は4月中旬に学内公募)。

福祉振興協会とは第1次派遣時から連携していますが、第6次は全日程を通して協働で活動しようと話し合いを進めています。協会は音楽チーム、大道芸、体操を中心にプランを組みます。

メンバーは5月初めまでには決定。料理や昔遊びのリハーサルを行うほか、現地社協、自治会との打ち合わせをします。学校関係の訪問先はカリキュラムの関係があり、交渉を急いでいます。

【第6次プロジェクトチーム】堺汎、小畑浩昭、海野龍英、井口久美子、永野知己、南形徹(わ本部)、増金スミ子(福11)、大澤貞男(生13)、波多野武郎(食16)、橋野美子(一般)



女川へ英ウィリアム王子

復興が進む女川町でJRの新駅が完成、3月21日に須田善明町長や住民が参加して「まちびらき」が行われました。1日には来日中の英ウィリアム王子が訪れ、須田町長ともにこやかに懇談。町は歓迎ムードに包まれました(写真=女川町提供)。須田町長は1月に〈わ〉の招きでカレッジを訪れ、復興の現状について講演しています。

サポート募金のお願い

阪神・淡路大震災から20年が経ち、当時の赤ん坊は成人式を迎えて震災の記憶も忘れられようとしています。一方で5年目を迎えた東日本大震災は、まだまだ復興のリズムに乗れていません。7月には第6次隊を東北へ派遣しますが、今後はこれまでの支援活動から、現地との絆を生かした交流活動へと切り替えてゆきたいと考えています。

グループ〈わ〉が続けてきた東北への支援活動に対し、この3月30日には「ひょうご安全の日推進県民会議」から感謝状が授与されました。2013年の厚労大臣感謝状につづく荣誉で、これも会員の方のご協力のお蔭だと感謝しています。今後もこうした活動を続けたいと思っておりますので、引き続きサポート募金へのご賛同をよろしくお願い申し上げます。 理事長・堺 汎

東北感想文集 第4集刊行

グループ〈わ〉は、東北支援チームの体験報告・第4集を3月に刊行しました。A5判64ページ。1次～5次メンバー43人の感想文集で、震災の現場に立ち、ボランティアとして活動した皆さんのナマの声が続けられており、〈わ〉の東北支援活動を語り継ぐ資料になれば、との思いが込められています。関係者に配布するほか、振興協会、図書室などに寄贈します。

サポート募金のご報告 (1月8日～3月31日分・敬称略)

形部康子(福10) 3千円、募金箱670円、脇田幸子(生16) 千円、石谷完(生13) 千円、古川孝友(生12) 千円、芝崎怜(国17) 千円、太田治彦(生17) 千円、浅貝弘行(生18) 千円、涌井岑治(生9) 千円、宮田幸長(美17) 500円、野鳥と自然観察会(1万円)、待鳥孝夫(生13) 5千円、尾川一(生2) 1500円、横井幸雄(福11) 5千円、大正琴プリムラ1万円、村岡孝(音13) 2千円、筒井ちなみ(音17) 5千円、波多野武郎(食16) 5千円、迫田純夫(国10) 2千円、生環19期一同1,656円合計58,326円。